



しきん

平成 28 年 11 月 1 日
京都市立第四錦林小学校
校長 綿越 貴久
特別号 NO.11

『グローバル化時代に よりよく生きるために 自ら考え行動する子を育てる』

—よりよく生きるために、自ら考え行動する子を育てる—

「全国学力・学習状況調査」の結果の分析から

4月19日、6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査について、結果がまとまりましたのでお知らせします。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を使う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など本校の子どもたちの状況をお伝えします。

1. 本校の結果と傾向



○学力については、主として知識に関するA問題、主として活用に関するB問題とともに、国語、算数どちらにおいても全国平均、京都府平均を上回っている。

○国語、算数はどちらも、B問題の方がA問題よりも全国平均を大きく上回り、活用に関するB問題の方がよりよい結果を得た。この傾向は、27年度の成績と比較しても大きな変化は見られない。

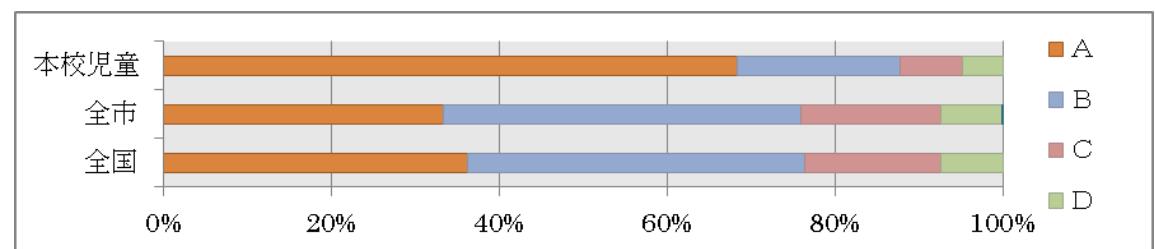
2. 児童質問紙から見られる課題



○児童質問紙より、昨年度課題であった「生活習慣」「言語活動・読解力」「自尊感情」などが飛躍的に伸びている。特に、「自分にはよいところがありますか」では、68%の子どもたちが「当てはまる」と答えている。

質問6 「自分にはよいところがありますか」

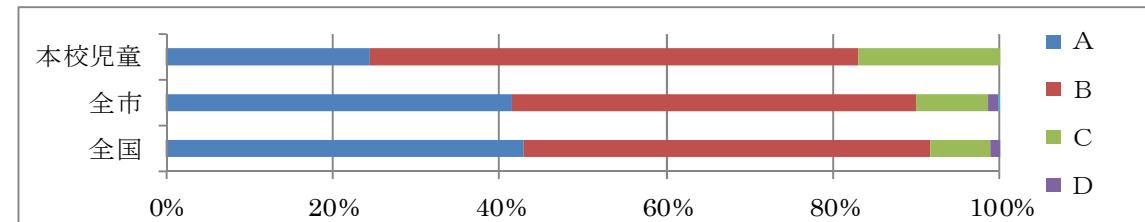
A当てはまる Bどちらかと言えば当てはまる Cどちらかと言えば当てはまらない D当てはまらない



▲「学校のきまりを守っているか」では、「当てはまる」と答えた本校児童は24%で、全国・京都府よりもたいへん低い結果が出た。「どちらかと言えば当てはまる」を含めても全国・京都府ともに低い結果となった。

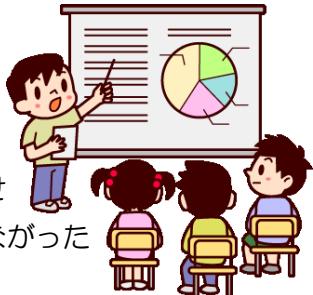
質問39 「学校のきまりを守っていますか。」

A当てはまる Bどちらかと言えば当てはまる Cどちらかと言えば当てはまらない D当てはまらない



3. 考察

今年度の質問紙の結果より、本校児童は、日頃から学習を意識して生活していることが伺え、学習への意識の高さが、学力テストで一定の結果を残すことにつながっていると考えられます。また、子ども一人ひとりを認めて取組を進めてきたことで、学力でも一定の結果を残せたことで自信となり、そのことも一人ひとりの自尊感情の高まりにつながったのではないかと考えています。



また、「国語は好きですか」「算数は好きですか」など、教科の好き嫌いを問う項目では、「当てはまる」と答えている児童が多い結果が見られました。これは、児童が勉強は大切であり、しなければならないものと考えているということがわかります。そして、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか」の問い合わせには全市全国の6年生と比べると、「当てはまる」と答えた児童の割合が大変多く、学校生活を楽しんでいる様子が伺えました。

これからの学びは、子どもたちが「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使ってどのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということが大切になってきています。知識・技能・思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるもの全てを、いかに総合的に育んでいくかということが大切です。友達との関わりを大切にしていく中で、学びの課題を発見し、解決に向けて主体的に協働的に学んでこそ、仲間と高まり合う学びの楽しさを味わうことができるものです。

規範意識にも関わる「学校のきまりを守っているか」の問い合わせは、全国・京都府ともに本校が平均よりも下回っています。「四錦のきまり」や「かっこいいしきん」が本校にはあります。毎年6年生が自ら守っていこうとする意識の元、見直しを行っています。きまりは、守らされているものでなく、気持ちの良い毎日が送れるためにあるものであることを子ども達にも理解させ、守ることの大切さを伝えていきたいと考えます。

今後は、本校が進める外国語活動・英語活動をはじめとするすべての授業で、より言語活動や体験活動の充実を図り、問題解決的な学習や探究的な学習を多く取り入れることで、子どもがより主体的に興味をもってすすめる授業づくりを目指していきます。

